

学生の立案指導についての一考察

——実習テキストに掲載されている指導案内容と学生が
取り組んだ指導案内容との比較を通して——

林 富 公 子

はじめに

保育者を目指す学生にとって実習とは、実習までに習ってきた教科全体の知識・技能を基礎とし、それらを総合的に実践する応用能力を養うために、実際に子ども・保育者・保護者等と関わり、幼稚園・保育所の役割や意義を肌で感じるものである。本校の保育実習の実習要項でも保育所保育の目的や役割を理解すること、実際の保育に参加することにより保育士の仕事内容や乳幼児の発達を具体的に理解すること、保育士としての乳幼児とのかかわりを学ぶことが実習目標とされている。

学生の中には中学時代のトライやるウィーク、高校時代の保育実習やボランティアなどを通して子どもとかかわる経験をしている者もいるが、保育者養成校での実習（幼稚園・保育所）はそれまでの現場体験と違い、期待と不安が交錯するもののようである。

碓氷（2006）は実習生が不安に思うこととして「部分実習や全日実習はどのくらいあるか」、「指導案をきちんと書けるか」、「子どもたちの状態に合わせて臨機応変に対処できるか」、「担任との関係がうまくいくか」、「担任とのコミュニケーションがうまくとれるか」をあげている。この5項目の中でも特に平均得点が高かったのが、指導案に関する2項目（「部分実習や全日実習はどのくらいあるか」、「指導案をきちんと書けるか」）であった。このことから分かるように学生にとって実習で指導案を書きそれを実践することは大きな不安要素といえる。

ところでこの指導計画の立案は、文部省が出している指導計画の作成と保育の展開に参考例として載っているように、基本的な作成の流れはある。しかし実際のところこの指導計画の作成はかなり経験則で行われており、現場で実際に働く保育者にとっても常に頭を悩ますものだという（渡部 2006）。そのような中、実習生が指導案を書くことはかなり困難を伴い、筆者も学生から「何の活動で書いたら良いか分からない」、「何から書き始めてよいのか分からない」、「何を書いてよいのか分からない」、「ねらいが分からない」などの相談を受けることもあった。

学生が指導案の立案を難しく思う理由として、前田ら（2004）の発表にもあるように、学生は実際に保育する子どもの姿をイメージしにくいと考えられる。学生の中には中学校や高校の職業体験などで保育所や幼稚園に行ったことがある者もいるが、そこで学生たちは子どもに対して意

図的にかかわってきたわけではない。そのため、「ねらい」はもちろんのこと学生にとって「具体的にその時期の子どもの姿や発達を予想する」こと自体が困難であると思われる。

しかし学生にとって期日までに指導案を仕上げることは厳守すべきことであり、学生も指導案を書き終えるよう努力する。その結果、過去の先輩たちの指導案を写したり、関連の雑誌や書籍を写したりすることもあるようである。また、自分が良く知っている活動や好きな活動を主活動として書きそれにあうようにねらいを考えることもあるようである。

保育系の指導案に関する先行研究では、杉山（2007）は、学生は参加実習の活動経験や保育教材研究の授業を通して、その活動に対する説明のしかたや順序が分かり、指導案も書きやすいことを述べた。高橋（1996）は、①限られた期間である実習において指導計画の性格が変容しているとこと、②実習の指導計画作成は、長期的な教育課程（保育課程）という視点や子どもの姿に根ざした「ねらい」と「内容」の構成という前提を欠きやすいということ、も記した。広瀬（1996）は、大学における保育短期指導計画の教授法を検討し、保育者の思考過程と学生の思考過程との差を明確にするために、学生と保育者が同じ内容の指導計画を立て、学生は保育者の立てた指導計画を見ながら保育を観察するという取り組みをした。その取り組みの結果、実習園から指導案に関する苦情はきていないこと、逆に指導案の水準を評価する園もあったことを述べた。

このようなことから、教員の学生に対する指導案の指導に関する研究はあり、様々な形で取り組まれていることが分かる。ところで、学生は実習に行ってから指導案を作成する中で学生自身が何かを参考にして取り組む可能性があることを考えると、その参考のひとつに、実習に関するテキストがあるのではないかと思われる。しかし実習テキストに関する分析の先行研究は筆者が探した限りない。

そこで本稿では第一回目の取り組みとして、学生が書く保育計画である指導案の内容を学生が容易に入手可能であるということを考えて、幼稚園教育要領と保育所保育指針改訂前後（2008年1月～2009年6月26日現在まで）のテキストを通じて明らかにすると共に、実際に実習後の学生にどのような内容で指導案を作成したかについてアンケートをとり、その比較を通して今後の立案指導の参考とすることを目的とする。

I. 実習テキストに掲載されている指導案の内容

1. 調査方法と調査内容

2008年1月以降に出版された実習に関するテキストの中から、「指導案」に関する項目の分析を行う。

Webcat Plus を使用し、2008～2009年に出版されたテキストを対象に2009年6月26日に一致検索をしたところ「保育 実習」27冊「幼稚園 実習」11冊、計38冊のテキストが検出された。この中で、重複していたもの7冊、直接保育所実習や幼稚園実習と関係ないもの7冊、google

検索により、学生の入手が困難と思われる5冊、2009年新版が出版されている1冊を除く、計18冊を分析対象とした（Table 1）。尚、対象から外したテキストを Table 2 に記した。

Table 1 調査テキスト一覧

1	武藤隆監修	2008.2	よく分かる NEW 保育・教育実習テキスト - 保育所・施設・幼稚園・小学校実習を充実させるために-	診断と治療社
2	田中まさ子編著	2008.4	改訂幼稚園・保育所実習ハンドブック	みらい
3	田尻由美子, 元田幸代編著	2008.4	保育者をめざす学生のための実習指導サポート	ふくろう出版
4	名古屋文化学園保育専門学校実習指導委員会	2008.5	教育・保育実習マニュアル：子どもたち、そして	久美
5	編集	2008.6	未来のために	
6	相浦雅子・那須信樹・原孝成編著	2008.9	STEP UP! ワークシートで学ぶ保育所実習 1・2・3	同文書院
7	開仁志編著	2009.1	これで安心！保育指導案の書き方：実習生・初任者からベテランまで	北大路書房
8	民秋言・安藤和彦・米谷光弘・中西利恵編著	2009.1	新保育ライブラリ保育所実習	北大路書房
9	諏訪きぬ編	2009.2	幼稚園実習ガイドブック：実習の中で磨かれる“技と心”	新読書社
10	小林育子著者代表	2009.2	第2版幼稚園・保育所・施設実習ワーク	萌文書林
11	岡本富郎著者代表	2009.3	〈新訂第2版〉幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう	萌文書林
12	高橋かほる監修	2009.3	幼稚園・保育園実習まるわかりガイド：これ1冊で安心！	ナツメ幼稚園 保育園 books
13	松本峰雄編著	2009.3	教育・保育・施設実習の手引	建帛社
14	待井和江, 福岡貞子編	2009.3	保育実習・教育実習	ミネルヴァ書房
15	民秋言編著	2009.4	幼稚園実習	北大路書房
16	百瀬ユカリ著	2009.4	よくわかる保育所実習	創成社
17	百瀬ユカリ著	2009.4	よくわかる幼稚園実習	創成社
18	二階堂邦子 久富陽子編	2009.5	教育・保育・施設実習テキスト 指導計画の考え方・立て方：幼稚園・保育所実習	建帛社 萌文書林

Table 2 テキスト削除分

直接関係ないもの				
	澤口恵一編	2008	働く母親たち：さいたま市の保育所利用者調査から	大正大学人間科学部人間科学科 同文書院
	兼松百合子、遠藤巴子編著：坪山美智子〔ほか〕著 澤崎眞彦編	2008	小児保健実習：保育と保健・看護の視点から 「教材学」現状と展望：日本教材学会設立20周年記念論文集	
	帆足英一監修 大沼正寛編著	2008	実習保育学 日本小児医事出版社 地域遺産の継承と再生デザイン：久慈社会館・幼稚園を中心に：平成19年度東北文化学園大学教育奨励費助成活動実施報告書：科学技術学部住環境デザイン学科特定実習・日伊再生建築特論および近代建築等の環境調査実習	日本小児医事出版社 東北文化学園大学科学技術学部住環境デザイン学科
	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医療教育開発センター 資格試験問題研究会 編	2009	医療系学生の保育所実習による子育て支援：医療職を目指す学生の人間力を高める：取組成果報告書 2009	一ツ橋書店
google で検索し入手が困難だったもの				
	小泉裕子、田川悦子編著	2008	幼稚園実習・保育所実習の Mind & Skill：実習力から実践力へ	学芸図書
	神田伸生編著 共栄学園短期大学社会福祉学科児童福祉学専攻〔編〕 淑徳大学社会学部	2009	保育実習：子どもと社会の未来を拓く 子ども理解の深まりをめざして：保育実習報告集 保育実習報告書	青踏社 共栄学園短期大学社会福祉学科児童福祉学専攻 淑徳大学社会学部社会福祉学科
新しい版が出ているもの				
	待井和江、福岡貞子編	2008	保育実習・教育実習	ミネルヴァ書房

2. 結果と考察

①各テキストにおける指導案作成のページ数の割合

Table 3 各テキストにおける指導案作成のページ数の割合

		総 ページ数	指導案に関 するページ数	%
1	よく分かる NEW 保育・教育実習テキスト －保育所・施設・幼稚園・小学校実習を充実させるために－	186	17	9%
2	改訂幼稚園・保育所実習ハンドブック	183	38	21%
3	保育者をめざす学生のための実習指導サブノート	108	13	12%
4	教育・保育実習マニュアル：子どもたち、そして未来のために	181	12	7%
5	STEP UP！ワークシートで学ぶ保育所実習 1・2・3	146	6	4%
6	これで安心！保育指導案の書き方：実習生・初任者からベテランまで	155	151	97%
7	新保育ライブラリ保育所実習	147	10	7%
8	幼稚園実習ガイドブック：実習の中で磨かれる“技と心”	186	16	9%
9	第2版幼稚園・保育所・施設実習ワーク	184	9	5%
10	〈新訂第2版〉幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう	195	186	95%
11	幼稚園・保育園実習まるわかりガイド：これ1冊で安心！	127	18	14%
12	教育・保育・施設実習の手引	205	18	9%
13	保育実習・教育実習	267	50	19%
14	幼稚園実習	160	10	6%
15	よく分かる保育所実習	168	16	10%
16	よくわかる幼稚園実習	182	18	10%
17	教育・保育・施設実習テキスト	158	21	13%
18	指導計画の考え方・立て方：幼稚園・保育所実習	218	217	100%
		3156	826	26%

各テキスト5%～100%とばらつきがあったが、指導案を中心に書いているものと、実習全体の流れ、つまり実習とは何かということから、実習後の振り返りとまとめについてまで書いているものがあり、それが指導案に割くページ数の差に出ていると思われる。

②各テキストにおける指導案の年齢

ここでは、各テキストで実際に書かれている指導案をみて、その年齢がどのようになっているのかをみる。尚、枠のみで例が全くかかれていないもの3件と、保育実習などで書くことが少ないと思われる個別指導案3件、長時間保育2件、保幼小連携の指導案2件を除外した。尚、縦割りクラスのものについては、便宜上年齢が低い方へカウントした（たとえば、4～5歳児なら4歳児に数えた）。これは、この後の年齢表記の箇所においても同様である。また、各Tableに記

Table 4 年齢別

年齢（歳児）	幼稚園	保育所	指定なし	件数合計	平均
0		4		4	3%
1		11		11	9%
2		12		12	10%
3	9	7	11	27	22%
4	15	10	12	37	30%
5	13	8	10	31	25%
指定なし			3	3	2%
計	37	52	36	125	100%

されている「指定なし」は、各テキストにおいて幼稚園・保育所の記載がなかったものである。

幼稚園について書かれているもの37、保育所について書いたもの52、指定なし36であった。尚、「指定なし」とは、幼稚園・保育所の指定がなく指導案が書かれているものをさす。

年齢では、幼稚園の指導案もあるために、3歳児以上のものが多くを占める(95件、76%)。しかし保育所に限ってみれば、0～2歳児の指導案は27件、3歳以上のものは25件とさほど差がない。また、0歳児を除くと1歳児～5歳児まで満遍なく指導案が載せられている。これは0歳児は生活の援助が主体となり、子どもの姿を月例や日々の姿で捉え、1歳児以上と比べ個別対応の指導案になることも多く、実習生が指導案を書くことは困難であると思われるので、取り上げられていることが少ないと考えられる。

③部分実習と全日実習の割合

この箇所では、各テキストにおける部分実習と全日実習の割合を調べた。尚、部分実習には半日実習を、全日実習には責任実習で1日の流れが描かれているものを含んでいる。

Table 5 各テキストにおける部分実習と全日実習の割合

年齢(歳児)	幼稚園		保育所		指定なし		計	%
	部分	全日	部分	全日	部分	全日		
0				1			4	3%
1			3	2			11	9%
2			9	2			12	10%
3	4	5	10	6	9	2	27	22%
4	6	9	1	6	10	1	36	29%
5	6	7	4	5	11		32	26%
指定なし			3		3		3	2%
計	16	21	30	22	33	3	125	100%

Table 5の結果より、「保育所」と「指定なし」において、部分実習の指導案が多く(30件と33件)、幼稚園では全日実習に関するものが多かった(21件)。これは、保育所では子どもたちの登所・降所時間に差があるため、実習生が全日保育をすること自体が困難である可能性もあること、保育所は生活の場でもあるので、生活の部分の指導案をあえて書かない園もあると思われることから、全体として部分実習のほうが多く、逆に幼稚園では、登・降園時間がおおよそ決まっ

Table 6 各テキストにおける指導案の内容

	製作	自活	生活	ゲーム	絵本	運動	リズム	その他	合計	%
0歳児			1					1	4	3%
1歳児	1	1	3		2	1		2	11	9%
2歳児	4	3	1	2	1			1	11	9%
3歳児	8	2	1	2	2		3	1	27	22%
4歳児	16	9	4	7	3	1		1	37	30%
5歳児	15	3	4	1	3	3	2	4	32	26%
指定なし		2		1		1			3	2%
合計	44	22	14	13	11	6	5	10	125	100%
%	35%	18%	11%	10%	9%	5%	4%	8%	100%	

ていることなどから、全日実習の指導案が多いと考えられる。

④各テキストにおける指導案の内容

ここでは、各テキストに書かれている指導案の内容について述べる。なお、この分類は筆者の試案である。

Table 6 に示した筆者が製作に分類したものは、「折り紙、カラフル団子作り、くっつけて遊ぶ(廃材をボンドでくっつける)、くりのお面を作る、こまとぶんぶんごま作り、スタンプング、デカルコマニー、動物作り、フィンガーペインティング、ヨーヨー作り、新聞紙遊び、飛び出すおもち作り、小麦粉粘土など」であり、自由活動には園外保育も含めた。ゲームの内容は「じゃんけん、変身ゲームなど」、生活に分類したものは「帰りの会、給食、午睡、登園」、絵本には「絵本を読む、パネルシアターをするなど」、運動には「リレー、ドッジボールなど」を分類した。またその他とは「自己紹介、ダンボールの電車ごっこ、マジックテープでくっつける、いないいないばあ遊び、水って不思議だな、発表会の練習、歌を歌うなど」のことである。

この結果、約 1/3 が製作について書かれていることが分かる。これは、実習生にとって製作という活動は、比較的活動内容や準備物、子どもの姿や援助をイメージしやすいと考えられているからではないかと思われる。

II. 学生のアンケート調査からみた指導案の内容

1. 方法

①調査対象

A 県内にある保育や幼児教育を専攻する大学生 57 名。この中で実習に行かなかった学生 2 名と回答不備のもの 1 名、設定保育をしなかったもの 3 名の計 6 名を除く 51 名を調査対象とした。

年齢は 20～25 歳 (平均 20 歳)、全員が女子学生であり、実習先は幼稚園である。

②調査時期

幼稚園実習終了直後の 7 月上旬にアンケート調査を実施した (論尾末にアンケート用紙を掲載)。

③調査内容

フェイスシートと部分実習や全日実習をした回数や、それをしたときの子どもの年齢、内容、その内容を選んだ理由を、自由記述式で書いてもらった。

2. 結果と考察

①部分実習や全日実習における子どもの年齢

51 名で合計 182 回の部分実習や全日実習をしたとの回答がえられた。内訳は次の通りである。

幼稚園といっても 2 歳児での設定があったようだ。また、一人 1 回～8 回という幅はあるものの、設定保育をした学生の平均は部分実習では一人当たり 3 回 (3.00)、全日実習では .55 回で

あった。

②実施した実習内容

Table 7 子どもの年齢

	部分	全日
0歳児		
1歳児		
2歳児	3	
3歳児	32	3
4歳児	54	11
5歳児	65	14
合計	154	28

Table 8 実際に取り組んだ実習内容

	製作	絵本	ゲーム	歌唱指導	生活	リズム	運動	その他	合計	%
0歳児										
1歳児										
2歳児	1	1			1				3	2%
3歳児	10	7	4	4	3	5	1	5	39	19%
4歳児	24	11	9	6	6	6	1	5	68	38%
5歳児	19	14	11	8	4	4	3	9	72	41%
合計	54	33	24	18	14	15	5	19	182	100%
%	31%	18%	12%	10%	8%	8%	3%	10%	100%	

その他とは「素話（3回）、手遊び（3回）、まねまねヨーガ（3回）、わらべ歌（2回）、まねっこ遊び、ふれあいあそび、泥んこ遊びの前後指導、ピアノを弾く、宝探し、お楽しみ会」である。

また、設定保育の具体的な活動内容を選んだ理由（自由記述）を分類したところ、「自分（実習生）が取り組んでみたかったから、または取り組みやすかったから（59件）」、「園で決まっていたから（39件）」、「季節感から（26件）」、「子どもの普段の姿から（20件）」、「授業で習ったから（6件）」、「子どもに対する願い（8件）」、「未記入16件」となった。その他には「担任の先生にクラスの子達がすきそうな題材を挙げてもらいその中から選んだ」や「先輩たちが書いた製作の指導案を見て、これがいいと思ったから」という回答もあった。

これらのことから、やはり学生は、子どもの姿から活動を考えるよりも、活動に対する取り組みやすさから内容を選ぶ傾向にあることがわかった。

Ⅲ. まとめと今後の課題

以上、本稿では今後の立案指導の参考にする為、実習におけるテキストの指導案と、実際に学生が実習でたてた指導案における全体的な枠組みである各案の内容を中心に、その比較を試みた。

その結果、テキストに掲載されている内容や頻度と学生が取り組んだ内容において、次のようなことが分かった。

テキスト、学生の取り組みのいずれにおいても、「製作」が最も多く取り上げられていた（テ

キスト 44 件 35%、学生 54 件 31%)。次に、テキストのほうには「自由活動」(22 件 18%) が多く記載されていたが、学生の指導案には自由活動についての回答はなかった。この理由を筆者は、①学生にとって子どもの姿をより深く把握し、それをもとにねらいや環境構成を考える自由活動は、学生にとって難しいものであること、②今回の学生に対するアンケートの設問が「主活動」と「その活動を選んだ理由」であったために、全日実習や半日実習で学生自身が自由活動していたとしても、それを「主活動」として認識していなかったこと、と考察した。

また今回の結果から、実習生の中には一度も設定保育をしていない者(3名)、部分実習を一回のみで全日実習は一度もしていない学生(23名)、部分実習は一度もせずに全日実習を一度だけした学生(1名)や、全日実習をしていない学生(25名)がいることも分かった。行事がつまっているなど、園側の理由で部分実習や全日実習に取り組めない学生もいると思うが、実習生としてより幅広い活動を体験することや多くの設定活動することは、将来現場に出たときに大いに役立つと思われる。そのため、園側が可能であるならば、積極的に指導案を書くことや前向きに部分実習・全日実習に取り組むように学生に伝えることも大切であろう。

次の研究では、保育所における部分・全日実習の現状についても調査を試みたい。また、テキストに出てくる指導案の内容も大まかな内容について見ただけであったので、これからの研究でその中に出てくる子どもの姿の実際や、指導案の書き方がどのように語られているかについての分析にも取り組みたい。

謝辞

この研究をするにあたって助言を頂きました聖和大学大学院の指導教授服部照子先生に感謝します。夫と息子、実家の両親も様々なことで支えてくれて本当にありがとう。

引用文献

- 広瀬健一郎 2006 大学における保育短期指導計画作成の教授法－活動提案型指導案の立案指導－ 文化女子大学室蘭短期大学研究紀要 p 23-45
- 前田(林) 富公子・前島寛子 2004 専門学校の子どもイメージに関する一考察 1 乳幼児教育学会第 14 回大会論文集 p 122-123
- 文部省 1993 幼稚園教育指導資料第 1 集 指導計画の作成と保育の展開 p 39
- ト田真一郎・植田明・平野真紀 2007 保育者用養成校における「子ども理解に基づく長期指導計画作成」の取り組み 全国保育士養成協議会第 46 回大会研究発表論文集 p 224-225
- 待井和江・福岡貞子編 2008 保育実習・教育実習 ミネルヴァ書房
- 杉山喜美恵 2007 責任実習における現状と問題点－保育実習Ⅰと保育実習Ⅱを比較して－ 全国保育士養成協議会第 46 回大会研究発表論文集 p 88-89
- 高橋貴志 1996 実習における指導計画に関する一考察－問題の所在と課題－ 聖セシリア女子短期大学紀要第 21 号
- 碓氷ゆかり 2006 幼稚園教育実習における学生の不安移管する研究Ⅰ 聖和大学論集第 34 号 p 18、19
- 渡部(君和田) 容子 2006 保育指導計画の意義と指導計画の立案指導 鳥取短期大学研究紀要第 53 号 P 31-38

〔はやし ふくこ 幼児教育学〕

② ①で「した」に○をした人におたずねします。下記の表の設問に教えてください。

	部分 or 全日	主活動	年齢	その主活動を選んだ理由
例	部分実習	どんぐりのリズム	3歳	ピアノが好きだったのと11月の実習だったのでどんぐりを選んだ。
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				